


第3回 旧検見川無線送信所の利活用に関する
ワークショップ等開催業務委託報告書

令和3年10月
千葉市



1. 現地見学会	3
2. ワークショップ	
概要	5
ワークショップ準備	6
ワークショップの事前説明	7
グループディスカッション	
－Aグループ	8～9
－Bグループ	10～11
－Cグループ	12～13
－Dグループ	14～15
3. 総括	17



1. 現地見学会



意見交換を活発にすることを目的として、旧検見川無線送信所（以下、「送信所」）の歴史説明や内部見学などを含めた現地見学会を開催。定員3名×10枠に分け、1枠15分以内で施設内を案内した。

見学ルートは1Fエントランスから2Fへ上がり、庶務課事務室、第一発振室、屋上へ上がるルートとした。

◆日程 ※（）は参加人数

・10/2（土）

①9:00～9:15(3名) ②9:30～9:45(3名) ③10:00～10:15(2名) ④10:30～10:45(2名) ⑤11:00～11:15(3名)

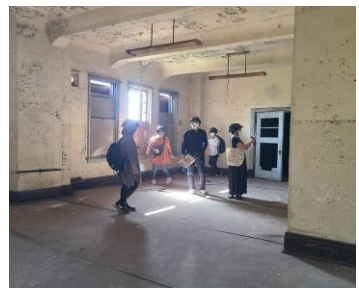
・10/3（日）

①9:00～9:15(3名) ②9:30～9:45(2名) ③10:00～10:15(3名) ④10:30～10:45(2名) ⑤11:00～11:15(2名)

計25名

◆新型コロナウイルス感染症対策

- ・マスクの着用
- ・入所前の検温
- ・手指のアルコール消毒
- ・説明は屋内の会話は必要最低限とし、入口手前と屋上を中心に実施
- ・1グループ最大参加人数を3名まで
- ・見学時間は1グループ15分程度





2. ワークショップ



「第3回 旧検見川無線送信所の利活用に関するワークショップ」は、2021年10月9日（土）にオンラインおよび千葉ポートサイドタワーの会議室で開催した。

当日は、周辺地域の情報や文化財利活用事例を紹介するとともに、住民参加型ワークショップを行う意義などの事前説明を行った後、グループ単位でのディスカッションを50分×2回実施した。最後は各チームで議論した内容を発表し合う場を設け、総括ファシリテーターの山崎氏からの総評をもって閉会とした。

～当日のプログラム～

13:00	13:05	開会の挨拶・市長ご挨拶
13:05	13:15	イントロダクション
13:15	13:25	土地利用計画について(市都市局職員による説明)
13:25	13:40	検見川のまち紹介、文化財の利活用事例
13:40	14:00	住民参加型プロセスの価値について
14:00	14:10	休憩
14:10	15:00	ワークショップ (1)
15:00	15:10	休憩
15:10	16:00	ワークショップ (2)
16:00	16:10	休憩
16:10	16:40	各チーム発表
16:40	16:45	総評、閉会の挨拶

当日は10代から80代までの合計25名がグループディスカッションに参加し、参加方法の希望や年齢層などを踏まえ、参加者を以下の4グループに編成した。

Aグループ (現地会場)

80代：1名 (男性)
60代：1名 (男性)
50代：1名 (男性)
20代：3名 (男性2名女性1名)

計6名

Bグループ (オンライン会場)

60代：2名 (全て男性)
50代：1名 (男性)
40代：1名 (女性)
20代：2名 (全て男性)
10代：1名 (男性)

計7名

Cグループ (オンライン会場)

60代：1名 (男性)
50代：2名 (全て男性)
20代：1名 (男性)
10代：2名 (全て男性)

計6名

Dグループ (オンライン会場)

60代：1名 (男性)
30代：2名 (男性・女性)
20代：2名 (全て男性)
10代：1名 (男性)

計6名

ワークショップの事前説明

■開会のあいさつ

神谷俊一千葉市長が、冒頭のあいさつにおいて旧検見川無線送信所の価値や今回のワークショップでの活発な意見交換への期待を述べた。

■イントロダクション

第1回、第2回のワークショップで聴取した意見を参加者に紹介し、これから実施するワークショップの進行イメージを共有した。

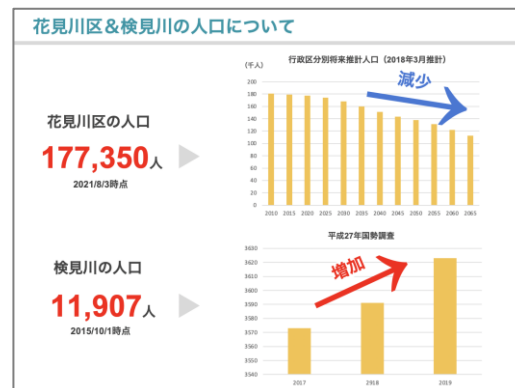
■検見川のまち紹介・施設の利活用事例

千葉市花見川区及び送信所が立地する検見川5丁目の人口傾向や町の魅力等に関するプレゼンテーションが行われ、まちとしての発展の潜在的な可能性が紹介された。

また、利活用のイメージを膨らませるため、文化財が宿泊施設やビジネスサロン等になった他都市の利活用事例などを取り上げた。

■住民参加型プロセスの価値について

統括ファシリテーターの山崎氏が、魅力的なまちの特徴や住民参加型まちづくりの重要性等に関するプレゼンテーションを行うとともに、立地条件や収益性等現実的な制約条件は考慮せず自由な発想で発言することや次世代を見据えながらワクワクしながら議論すること等、ワークショップでの意見交換を活性化するためのコツを解説した。



登録文化財の利活用事例

1. EN

新たなランドマークで、歴史、自然、暮らし、そして人がつながる

元々の施設・・・竹田城跡の城下町にあった旧木村酒造
利活用の経緯と目的・・・建物の歴史性を尊重し、可能な限りそのままにリノベート。人と人の縁を結ぶ場所になってほしいとの思いが込められている。
利活用後の運用方法・・・ホテル、レストラン、カフェ、マルシェ
所有者・・・パリューマネジメント(株)



新たな利活用アイデア

- ・宇宙センター
- ・医療施設
- ・託児所
- ・温泉
- ・ジム
- ・ブルワリー
- ・展望台
- ・避難所
- ・診察所
- ・建物の展示場
- ・様々な世代の交流の場
- ・行列のできる飲食店

屋外の使い道

- ・井戸を掘る
- ・ドッグラン
- ・緑
- ・ランニングコース

1Fの使い道

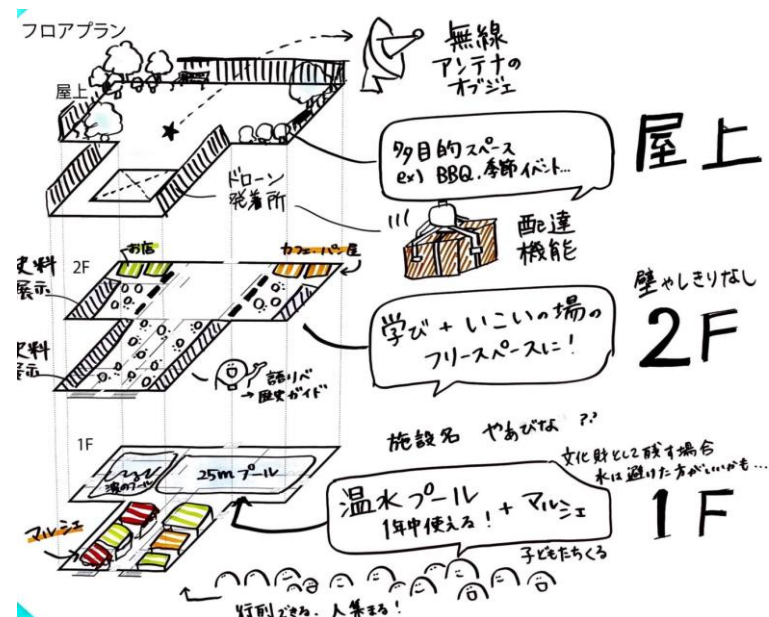
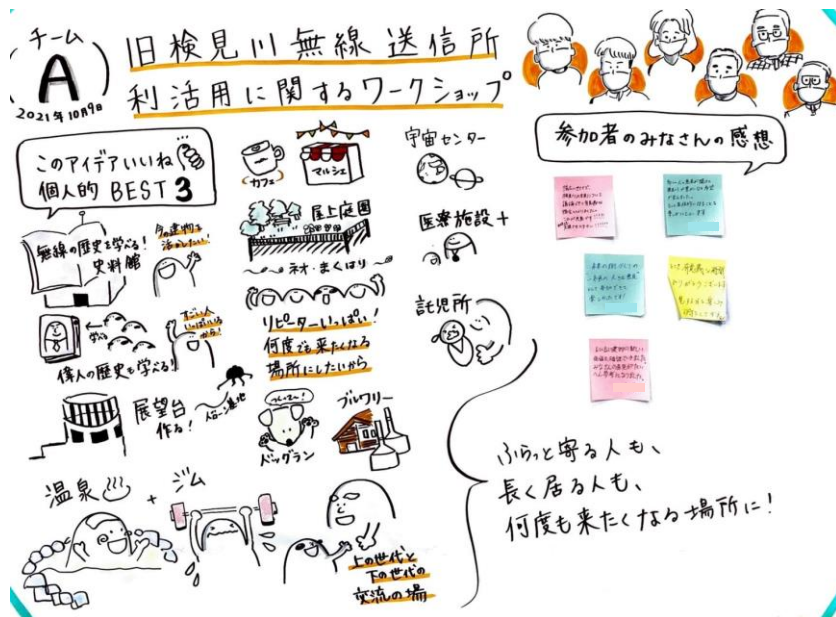
- ・温水プール
- ・マルシェ

2Fの使い道

- ・史料展示
- ・カフェ
- ・パン屋
- ・学びと憩いの場のフリースペース
- ・クラフトカフェ
- ・ブルワリー

屋上の使い道

- ・ドローン発着所
- ・無線アンテナのオブジェ
- ・多目的スペース（BBQ、季節のイベントなど）
- ・庭園
- ・宇宙と通信



ディスカッション総括

Aグループは送信所を「ふらっと寄る人も、長くいる人も居心地の良い場」にしようというコンセプトに集約された。周辺施設である検見川グラウンドとの兼ね合いを踏まえ、『スポーツと文化の融合』をコンセプトとして掲げ、「温水プール」、「マルシェ」など様々な案を提示していた。さらに「史料展示スペース」や「アンテナのオブジェ」をつくるなど送信所であった歴史を大切にしながら、新しいコミュニティの場となる建物に転用して活用するという方向にまとまった。

新たな利活用アイデア

- ・シェアスペース
- ・個室の会議室
- ・情報発信局
- ・コミュニティ局
- ・教室（お茶・陶芸など）
- ・シェアオフィス
- ・農業体験
- ・シェアカフェスペース
- ・運動してきた人がリラックスできる場所
- ・フィルムカメラの画像を現像できる暗室

屋外の使い道

- ・家庭菜園
- ・ハス池
- ・キッチンカー
- ・運動場所
- ・ドッグラン
- ・噴水（子どもの遊び場）

1Fの使い道

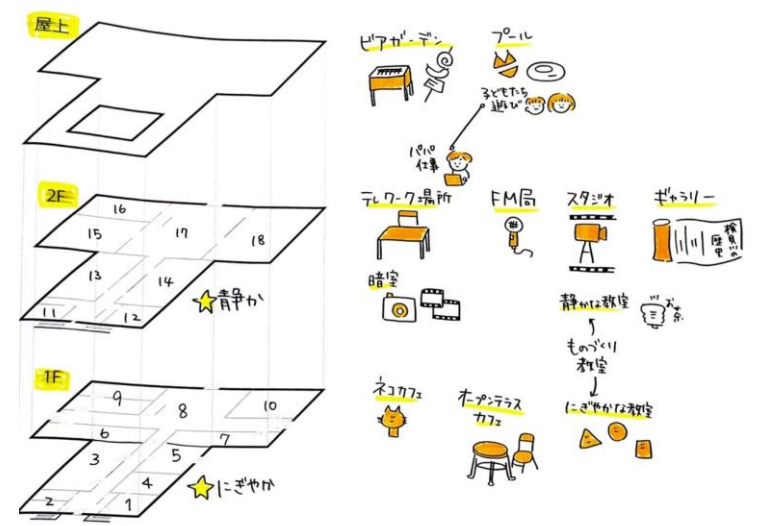
- ・猫シェルター
- ・オープンテラスカフェ
- ・賑やかな教室

2Fの使い道

- ・テレワーク場所
- ・FM局
- ・スタジオ
- ・ギャラリー
- ・暗室
- ・静かな教室

屋上の使い道

- ・ビアガーデン
- ・プール



ディスカッション総括

Bグループでは建物をゾーニングし、「猫カフェ」や「オープンテラス」といったにぎやかなスペースと「会議室」や「ギャラリー」といった落ち着いたスペースの活用案が提示された。これらの提案で共通していた点は、『建築物としての価値』、『送信所としての歴史的価値』、『交流施設としての価値』の3つの価値を軸に建物を転用して活用することであり、建物の特徴を活かしながら、地域の人々が楽しめる空間を提供し、検見川から世界へ発信できる施設を目指す方向でまとまった。

新たな利活用アイデア

- ・映画館
- ・多目的広場
- ・レストラン
- ・公園
- ・自習室
- ・展示会
- ・多目的ホール

屋外の使い道

- ・アンテナ設置（モニュメントでも！）
- ・テニスコート
- ・野球場
- ・サッカーグラウンド
- ・ドッグラン

1Fの使い道

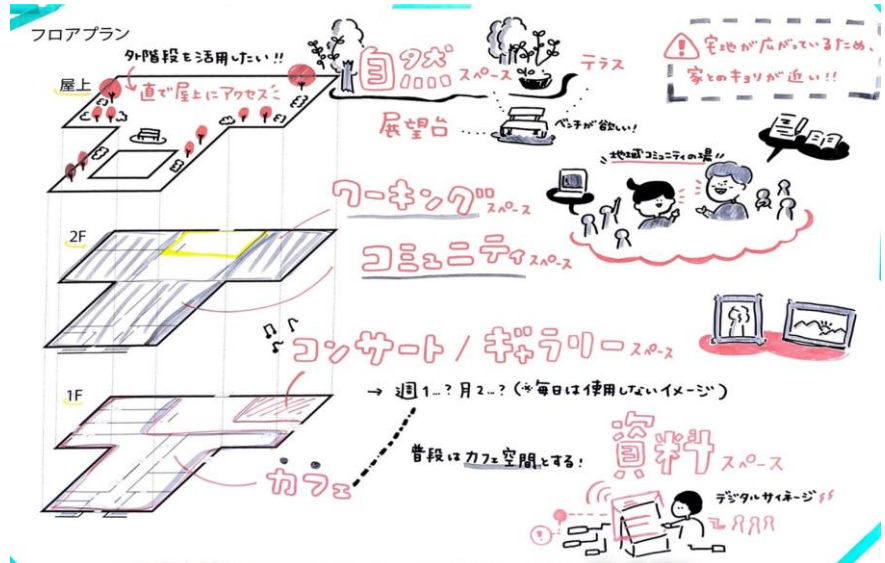
- ・カフェ
- ・コンサート&ギャラリースペース
- ・資料スペース

2Fの使い道

- ・ワーキングスペース
- ・コミュニティスペース

屋上の使い道

- ・自然スペース（外階段の活用）
- ・テラス
- ・展望台



ディスカッション総括

Cグループでは、「ワーキングスペース」や「コミュニケーションスペース」、「ドッグラン」など、送信所の『つなぐ』という役割を踏まえ、ライフスタイルや年齢を超えたコミュニケーションが生まれる場にしようという意見に注目が集まった。またこのような意見を踏まえ、元々の建物の歴史的価値や外観・特徴などを残しながらも、新しいコミュニティの場として建物を利活用する方向性でまとまった。

新たな利活用アイデア

- ・IT塾、子どもの学び場
- ・スウェーデン姉妹都市
- ・マルシェ
- ・サウナ
- ・災害情報の共有スペース
- ・プロジェクトマップピング
- ・星空の下でライブ
- ・大きな絵を描く
- ・映画鑑賞
- ・ドローンを飛ばすスペース

屋外の使い道

- ・ビオトープ
- ・ライトアップ、イルミネーション

1Fの使い道

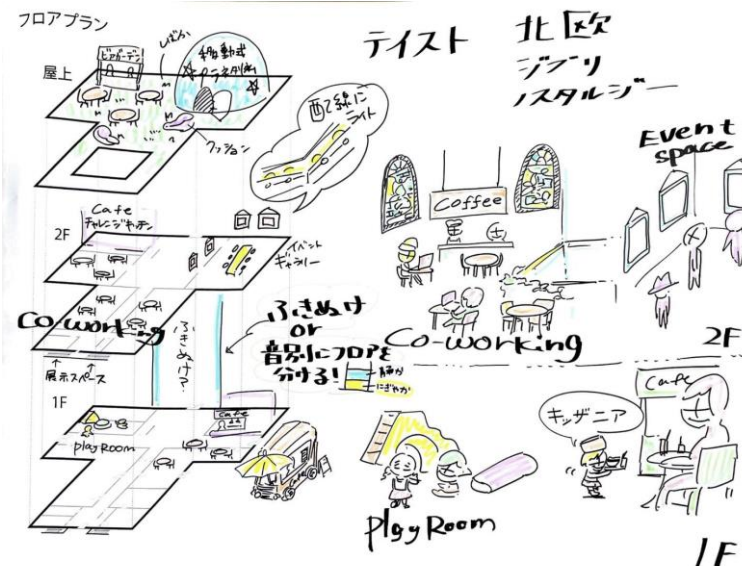
- ・子どもが遊べるプレールーム
- ・キッズニアのような仕事を伝えるスペース（期間限定）
- ・カフェ

2Fの使い道

- ・ギャラリー
- ・イベントスペース
- ・コワーキングスペース
- ・外国人との交流
- ・カフェ（コーヒーステーション）

屋上の使い道

- ・ビアガーデン
- ・プラネタリウム



ディスカッション総括

Dグループでは、「ビアガーデン」や「キッチンカフェ」など民間利用の提案のほか、送信所と関わりの深いスウェーデンのテイストを内観に取り入れたり、屋外に千葉の大賀ハスを活かした「ビオトープ」をつくるなど、建物の歴史的文化的価値を踏まえた様々な利活用案が提示された。また外観をライトアップし、明るい優しい雰囲気を出すことで、地域の方々にとって安心できる居場所にするを目指す方向でまとまった。



3. 総括



今回のワークショップでは、全グループにおいて「旧検見川無線送信所の歴史的価値を一部に残しながら、地域の人のためになる機能をもって建物を利活用したい」という意見でまとめられた。

総括ファシリテーター山崎氏の総評は以下のとおり。

- ・コロナ禍の中、会場とオンラインを併用し様々な意見を出し合うことができ、良いワークショップになった。
- ・現在日本人の多くが求めていることは、人の繋がりと潤沢なスペースである。今回のワークショップでも、「カフェ」や「ドッグラン」、「世代を超えて人々が繋がる」といったように『繋がる』をキーワードとした意見が多い印象を受けた。これは、今後もこのプロジェクトを進める上で、大切なキーワードになる。
- ・しかしながら、現状市には皆さんが望む施設が作られる計画はなく、税金のみを投じて整備することも難しい。さらに、ルール変更には時間をかけたプロセスが必要。参加者をはじめ地域の皆さんが主体となって意見を集め、具現化してはじめて、ルール変更のきっかけになる。時間がかかる話ではあるが、その種まき役を今回皆さんが行った。
- ・今回でた意見を踏まえて、送信所を生まれ変わらせることで、皆さんの居場所ができ、近所の人も外から来る人も繋がることできる。
- ・今後は地域の皆さんが主体となって、市と話し合いを重ね、意見が通りやすい環境を作ることも必要。今回は3回目のワークショップにして具体的な利活用方法を絵にすることで、今後のディスカッションにも理解し合いやすく、よりイメージしやすいものになった。とても意義のあるワークショップになった。



第3回 旧検見川無線送信所の利活用に関する
ワークショップ等開催業務委託報告書

令和3年10月発行

発行

千葉県教育委員会事務局
生涯学習部文化財課
千葉県千葉市中央区問屋町1-35
ポートサイドタワー11階

編集

株式会社拓匠開発
千葉県千葉市中央区弁天2-20-20